

(別紙8)

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 12月 3日

【評価実施概要】

事業所番号	0170200802		
法人名	有限会社 篠路愛護苑		
事業所名	グループホーム からまつ		
所在地	札幌市北区篠路3条7丁目9番17号 (電話) 011-772-2260		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年11月30日	評価確定日	平成21年12月14日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホームからまつ」はJR篠路駅から数分と交通の便も良く、道路に面した玄関からは戸外を歩き交う地域の人々や車などの様子を身近に感じる事ができる。共有空間は家庭的で、上品な風景画や季節の装飾があり、利用者は自分の家のように落ち着いて過ごしている。介護計画作成時は、職員の意見や情報を十分収集し、個々の利用者に応じたきめ細かな計画が作成され、管理者と計画作成担当者がそれぞれ役割分担をする事で体制を充実し、サービスの向上に繋がっている。管理者が目指している「笑顔の絶えないホーム」という思いは新しい職員にも浸透し、利用者は明るい笑顔で会話を交わし、積極的に家事を手伝うなど職員とお互いに支え合いながら穏やかな日々を送っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	理念については、外部評価後に会議を開いて意見交換が行われている。市町村との連携については、市役所に訪問した時に参考意見などを聞く事で日々のケアに役立てられている。面会簿は、個別の用紙に変更し個人情報に配慮している。他の取り組み事項に関しても、積極的に継続して取り組みが行われている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、項目毎に職員の職種に応じて担当を決めて記入したものを、管理者がまとめ上げて作成している。今回初めて自己評価に取り組む職員も多く、内容を理解し、言葉で表現する事が難しいと感じている職員も多かったが、日々のケアを振り返る契機になったと感じている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、町内会長や地域住民、包括支援センター職員や保健衛生部長、民生委員、社長、家族などが参加して、2ヶ月毎に開催している。事業所の活動報告や外部評価、避難訓練などを議題として取り上げ、地域交流についての意見も交わされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	事業所の様子や職員の退職は、毎月発行の「からまつ通信」で報告し、個人の様子は、家族の来訪時や半年毎の通信で報告している。利用者の誕生日や体調変化の時も不定期に通信を発行して様子を伝えている。家族からの意見は、連絡ノートに記録して全職員で把握し、問題点は話し合いを行い改善に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、職員は総会などにも参加している。利用者は今年、篠路駅近くの空き地で開催された町内会のお祭りに参加し、ステージ発表や出店を楽しみ地域の人との交流を行っている。昨年クリスマス会には、歌やハーモニカ演奏のボランティアが来訪し、利用者は鑑賞を楽しんでいる。

【情報提供票より】(平成 21年 11月 10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14年 1月 17日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8人、非常勤 1人、常勤換算	8.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費:13,000円	
敷金	有(円)	(無)	暖房費:8,000円(11-3月)	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	1ヶ月当たり	40,000 円		

(4) 利用者の概要(11月 10日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2		3 名	
要介護3	2 名	要介護4		0 名	
要介護5	1 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 83.2 歳	最低 69 歳	最高	94 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団札幌優翔館病院・荒木病院・砂山歯科医院
---------	---------------------------

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「年を重ね、病気や障害があっても、仲間やスタッフと一緒に支えあい助けあいながら、地域や自然と触れ合い、関わりをもって自分らしく過ごしたい」という内容の事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	額縁に入れた理念を、みんなが集う一階の居間に掲げている。管理者は申し送りや日々の仕事の中で、グループホームは理念に基づいて仕事をしなければいけないと職員に話す事で、理念の意識付けを心掛けている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、職員は総会などにも参加している。利用者は今年、篠路駅近くの空き地で開催された町内会のお祭りに参加し、ステージ発表や出店を楽しみ地域の人との交流を行っている。昨年のクリスマス会には、歌やハーモニカ演奏のボランティアが来訪し、利用者は鑑賞を楽しんでいる。一方、地域の方が日常的に来訪する機会は少ない。		町内会行事への参加に加え、今後は地域の保育園や幼稚園、小中学校などに働きかける事で、少しずつ交流範囲が広がるよう期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、項目毎に職員の職種に応じて担当を決めて記入したものを、管理者がまとめて作成している。今回初めて自己評価に取り組む職員も多く、内容を理解し、言葉で表現する事が難しいと感じている職員も多かったが、日々のケアを振り返る契機になったと感じている。		ガイドブックなどを利用して、全職員が自己評価、外部評価の意義の理解を深める事で、更なるサービスの向上に評価が役立てられるよう期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、町内会長や地域住民、包括支援センター職員や保健衛生部長、民生委員、社長、家族などが参加して、2ヶ月毎に開催している。事業所の活動報告や外部評価、避難訓練などを議題として取り上げ、地域交流についての意見も交わされている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区や市主催の会議に参加すると共に、市役所に書類の提出に出向き担当者と話をしたり、事故報告書の提出時には他の事業所の様子や対応を聞いて、日々のケアに役立てるようにしている。		
4. 理念を实践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所の様子や職員の退職は、毎月発行の「からまつ通信」で報告し、個人の様子は、家族の来訪時や半年毎の通信で報告している。利用者の誕生日や体調変化の時も不定期に通信を発行して様子を伝えている。金銭管理報告は、郵送で毎月行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪した時は、世間話をしながらコミュニケーションを取り、気軽に意見や不満が言えるような関係作りを常に心掛けている。家族からの意見は、連絡ノートに記録して全職員で把握し、問題点は話し合いを行い改善に努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的に、職員の異動は行われていない。職員の離職による利用者へのダメージはあまり感じられないが、新しい職員に馴染めない時は、先輩職員が新人職員と利用者の仲立ちとなり、冗談を言いながらできるだけ会話を多く持ってコミュニケーションを深めるように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の経験年数や受講資格に応じて外部研修に参加できるようにしているが、十分な研修の受講体制と報告体制はまだ確立されていない。今年度は職員の入れ替わりにより内部研修を行う事ができなかったが、食中毒や業務の流れの確認などについて数回のスタッフミーティングは行われている。</p>		<p>今後は、毎月スタッフミーティングを行う意向なので、その中に計画的に内部研修を入れる事で職員の更なる育成を期待したい。外部研修後は、報告書などに加え、他の職員に対する研修報告の機会を持ち、全職員で研修内容を把握して日々のケアの向上に役立てられるよう期待したい。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>一般職員は、北区のグループホーム管理者連絡会主催の勉強会に年2回程参加して同業者と話す機会はあるが、相互の交流はまだ行われていない。</p>		<p>近隣のグループホームとの交流を計画しているとの事なので、今後は相互訪問などの交流を行う事で、更なるケアの向上を期待したい。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前は、できるだけ本人に数回来訪してもらい、利用者や職員と過ごして無理なくサービスが開始できるように工夫している。利用開始後は、本人の意思を尊重して話を聞いたり、天気の良い日は散歩に出かけて気分転換をしながら徐々に馴染めるように配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、漬け物や保存食の作り方など昔の事を教えてもらったり、食事の後片付けやおはぎを一緒に作るなど共に支え合っている。疲れている時や一人にいる時に、「大変だね」と声をかけてもらう事で、職員は精神的にも利用者に支えられていると感じている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>現在は、ほとんどの利用者が職員に対して希望や意向を伝える事ができる状況である。伝えられた一人ひとりの利用者の希望や意向に対しては、できる限り対応できるように配慮している。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用開始時にセンター方式によるアセスメントに基づく介護計画を作成しており、家族に説明して意見を聞いて確認の署名捺印を得ている。作成した介護計画は職員全員が共有し、横に意見が書けるようなシート形式にして使用している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に1度介護計画を見直しており、状況の変化に応じた見直しも行われている。日々の経過表や連絡ノートの情報に基づきモニタリングを行い、ケア会議で検討している。変更や追加事項は青や緑色で表示し、職員がすぐに分かるようにしている。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>一人での買い物について行ったり、訪問の理美容を利用するなどしている。通院は原則家族対応と決めているが、検査通院などが増えてきており、事業所でかなりの部分の通院支援を行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による月2回の往診を受けており、訪問看護も毎週受けている。定期的な検査通院を支援しているほか、元々のかかりつけ医の受診も支援している。受診結果について職員から家族に報告している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所としては医療行為が発生しない場合はできるだけ対応する方針としており、利用者や家族と「重度化した場合の対応に係る指針」を取り交わしている。過去に看取り介護を行ったケースはないが、その時の状況に応じて対応できる事を行う方針である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉かけや対応に気になる点が見られる場合は、管理者やお互いの職員がすぐに注意し合っている。個人の記録は事務所に安全に保管・管理されており、来訪者の受付簿についても個別記入方式に改善されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者はほぼ自由に過ごす事ができており、3時のおやつ後のレクリエーションも利用者の意見を聞いてぬり絵やカラオケ、体操などやりたい事を行っている。就寝状況により生活のリズムが多少乱れた場合でも寝ている時は無理に起こさないようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は指定業者により支給され、誕生会や季節の行事などで独自のメニューを取り入れている。利用者に食事の準備や後片付けなどできる事をしてもらっている。また、利用者は職員と一緒に、明るく話し合い、必要に応じて介助を受けながら食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴する事ができ、各利用者がほぼ3日毎に入浴している。入浴拒否をする利用者はおらず、一番風呂を好む利用者が多いので、記録をつけて順番が平等になるように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の配膳、洗濯物たたみ、玄関のカーテン開けなど利用者が個々の役割を持っている。普段から利用者同士の会話が長く、特別なレクリエーションをしなくても楽しく過ごしている。誕生会やクリスマス会を行ったり、社長による握り寿司の提供、おはぎ作りなども行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行事を企画し、花見や畑おこし、篠路神社詣で、さくらんぼ狩り、回転寿司などに出かけている。一方、日々の散歩や買い物は職員の配置や利用者にな不公平になるなどの課題もあり、十分には行えていない。		各利用者の外出機会が少しでも増えるよう、職員の連携や外出の仕方を工夫されるよう期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかける弊害を理解し、日中玄関は鍵をかけていない。利用者の出入りがある場合は玄関のセンサーが鳴り、わかるようになっている。外出がある場合は職員がついていくようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>前年は消防署の協力を得て避難訓練を実施していたが、今年はカーテンを防災のものに変更してから実施する予定であり未実施である。また、職員の救急救命訓練も実施されていない。</p>		<p>昼夜をそれぞれ想定した定期的な避難訓練の実施を期待したい。幅広い形での地域協力体制の構築と職員の救急救命訓練の実施も期待したい。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>献立は委託業者の管理栄養士が作成しており、業者より食材を取り寄せている。献立表に食事毎のカロリーや栄養バランスが表示され、活用している。日々の記録に食事や水分の摂取量を記録しており、個々の状態に応じて量を調整している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間には利用者の写真や季節の装飾が施され、見やすく大きな時計や素晴らしい風景画が設置されている。明るさや温度、音なども調整され居心地よく過ごせるようになっている。居間に面した玄関から外の様子がよくわかり、2階には大広間があって開放的である。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>昔から使っていた家具や調度品など、居室には利用者の馴染みの品物を自由に持ち込む事ができ、安心して過ごせる場所となっている。壁にも利用者が自由に飾り付けをする事ができている。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。